

ハンセン病患者への差別や偏見とたたかう人々

小学校高学年

ねらい ハンセン病について正しく理解し、差別をなくそうとしてきた人々の思いに共感する。

気づく

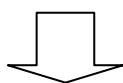
「ハンセン病を正しく理解する週間」について調べよう

ハンセン病について知る。
なぜ、「ハンセン病を正しく理解する週間」があるのか考える。

留意点

- ・ハンセン病について正しく理解されていないことにより、差別されてきた人々がいることを理解させる。

らい予防法、無らい県運動などを取り上げる。
グループで話し合い、出た意見をまとめておく。



広げる・深める 1

患者の思いに迫ろう

患者の暮らしについて知り、思いを感じ取る。

*このプログラムでは、「患者」に「元患者」も含めている。

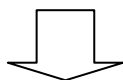
明治以降のハンセン病に関わる年表

人権啓発ビデオ「未来への虹 - ぼくのおじさんはハンセン病」
(法務省人権擁護局、財団法人人権教育啓発推進センター企画制作)

「人生に絶望はない - ハンセン病 100年のたたかい」(かもがわ出版)

「知らなかったあなたへ ハンセン病訴訟までの長い旅」(ポプラ社)

「生きて、ふたたび 隔離 55年 - ハンセン病半生の軌跡」(毎日新聞社)



広げる・深める2

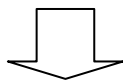
ハンセン病患者の人権回復に力を注いだ人々について調べよう

ハンセン病患者の人権回復に努力した人について知る。
ハンセン病患者の人権を回復しようとした思いを考える。

留意点

- ・具体的な事例を取り上げ、その思いに共感させる。

例：大谷藤郎さん（滋賀県出身）
大学在学中にハンセン病患者の診療を手伝うようになる。厚生省退官後も、らい予防法廃止運動に取り組む。



計画する

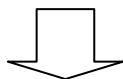
ハンセン病患者への差別をなくす朗読劇を作ろう

グループごとに朗読劇をつくる。

留意点

- ・差別に苦しんできた患者の思いや願いを表すようにさせる。

グループごとにこれまでの学習を生かし朗読劇を制作する。
自分の怒りや憤り、患者のたくましさなどが示せるようせりふを考える。



実践する・振り返る

朗読劇を発表しよう

学習したことをみんなに伝える。
日常生活にある偏見について話し合う。

人権集会や保護者参観等を利用して多くの人に向けて発信する。

